

事後評価結果（平成28年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課
 担当課長名：米村 享祐

事業名	一般国道202号 <small>ふくおかそとかんじょうどうろ</small> 福岡外環状道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自： <small>ふくおかけんふくおかしほかたくりゆうげじ</small> 福岡県福岡市博多区立花寺 至： <small>ふくおかけんふくおかしにしきゅうろくちよう</small> 福岡県福岡市西区拾六町	延長	16.2km		

事業概要
 福岡外環状道路は、延長16.2km、4車線のバイパス事業であり、昭和48年度に事業化し、平成23年度に完成4車線で開通している。

事業の目的・必要性
 本事業は、福岡都市圏の環状ネットワークを形成し、交通渋滞の緩和と秩序ある都市の発展を支援することを目的とした事業である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：S48年度 都市計画決定：S44年度	用地着手：S52年度 工事着手：S55年度	供用年 (暫定/完成)	当初：—/H22 実績：—/H23	変動	1.03倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)	計画時 (名目値) —/2,090億円 (実質値) —/1,859億円	実績 (名目値) —/2,090億円 (実質値) —/1,860億円	変動	1.00倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)	将来交通量 (H42) —/20,300~54,300台/日	—/28,007~43,907台/日	変動	81~138%
	旅行速度向上 (供用前現道→供用後現道)	14.1km/h (供用直前年次)H6年度	21.5km/h (供用後年次)H27年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	4,499件 → 3,735件 (供用直前年次)H17年 (供用後年次)H26年		
	費用対効果 分析結果 (前回再評価)	B/C : 2.1	総費用 : 3,033億円 (事業費: 2,936億円 維持管理費: 96億円)	総便益 : 6,495億円 (走行時間短縮便益: 5,769億円 走行経費減少便益: 635億円 交通事故減少便益: 91億円)	基準年 : 平成22年		
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C : 2.2	総費用 : 3,640億円 (事業費: 3,542億円 維持管理費: 98億円)	総便益 : 7,892億円 (走行時間短縮便益: 7,012億円 走行経費減少便益: 776億円 交通事故減少便益: 105億円)	基準年 : 平成28年		
	事業遅延によるコスト増	費用増加額 : 一億円	便益減少額 : 60億円				

事業遅延の理由
 工事時間の制約により、井尻地区の工事が難航したため。

事業の効果等	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保。(並行する(主)大野城二丈線の渋滞損失時間の削減:削減率約5割) ・個性ある地域の形成。(主要な観光地へのアクセス向上:福岡市博多区~糸島市(約18分短縮)) ・安全で安心できるくらしの確保。(三次救急医療施設へのアクセス向上:福大病院からの時間圏が拡大(10分圏カバー人口が約3.6万人増加)) <p style="text-align: right;">他14項目に該当</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事象の変化。(市街地への流入交通の減少:開通前32.6万台/日→開通後28.2万台/日) ・歩行者の安全性向上。(並行・放射道路の歩行者事故件数の減少:開通前58件→開通後37件) ・企業立地の促進。(沿線の商業施設床面積が増加:開通前:1.7ha→開通後26.3ha) ・公共交通の利便性向上。(福大病院と西鉄大橋駅を結ぶ新たなバス路線の新設)
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>当該道路は、環境影響評価を平成4年7月に実施しており、予測評価の結果、大気質、振動、動物については環境保全目標を満足している。</p> <p>騒音については、環境保全目標を上回る予測評価結果となっているが、供用後の騒音測定結果は環境基準値を満足している。今後、沿道の土地利用等の地域状況や交通量推移による騒音状況等を勘案して、対策が必要な場合は、適切な環境保全対策を講じる。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>並行する(主)大野城二丈線の騒音値が低減し、環境基準値を達成している。(昼間:69dB→67dB、夜間:62dB→60dB)</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線地域(福岡市、春日市、大野城市)の人口は、増加傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は福岡県・九州全体を下回っている。 ・並行現道の交通量は、福岡外環状道路開通後に減少。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、更なる事後評価の必要はない。 ・福岡外環状道路の整備により、「交通混雑の緩和」及び「交通安全性の向上」、「市街地形成の促進」等について、一定の効果が得られており、改善措置の必要はない。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市西南部地域で外環状道路を利用した公共交通の利便性向上を図るため、沿線病院や行政、交通事業者等による勉強会や検討会等を実施し、社会実験と試行運行を経て大橋駅から福大病院のバス路線新設を実現することができた。 ・社会資本を有効に活用するためには、地域ニーズを踏まえて公共交通等の道路の活用方策を検討し、本格実施に向けた関係機関との十分な調整、協議を行うことが重要である。 ・事業評価手法について、見直しの必要性はない。
特記事項	<p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。